

四、ミキ先生とともに生きて

武田ミキ先生を偲んで

植 尾 スミエ

去る日、私達グループが安佐市民病院へ学園長先生のご面会に参りました時、先生は力のある声で、「武田学園創立五十周年記念式典には袴をはいて、演台に立ちたいと思っている。」と、お話をして下さいました。以後私は朝夕「限らない御寿命でありますように。」と神佛にお願いをして参りました。それからこの十一月二十日の誕生日に友達とお見舞に参りました時は「ありがとう……」と喜んでくださり、その上握手もしてくださったので、安心してお部屋を出ました。それから何回かお電話でお伺いしましたが終わり頃には声が小さくなられたので心配はしていましたが、遂に翌月二十七日お浄土へお帰りになりましたという意味の電話をいただき、ああ、如何にお偉い先生でもまた強い精神力の持主の先生でも、寿命といういたずらには如何に惜しんでも悲しんでもどうするすべもない事を悟り、ただただ御冥福をお祈りする毎日でございます。とは申しまでもお浄土へお帰りになった実感

がどうしても湧きません。朝晩御佛前のお声のないミキ先生といろいろお話させてもらっています。家の事、武田学園の事等々（これ以降は記憶をたどりながら申します）。

さて私こと昭和四十七年九月、小学校の教員時代の上司のお誘いで、高校淳風寮の寮監という大役を戴きました。それから十一年七か月後の昭和五十九年三月に退職させていただきました。永いようで短かい十一年七か月でございました。最初は急なことで不案内のまま震える脚で学長室へ入りました。ところが、学長先生はおやさしく、今日はお疲れでしょうから徐々にお話ししましょうと言われ、

寮監さんは

。親代わりと思ってください

。風紀には細心の気配りをお願いします。

。「為せば成る為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり」これは私の生きた体験として知っておい
ていただきたいのです。

。前向き姿勢でお願いします。

わからない所は遠慮なく尋ねて下さいと言われました。その時の学長先生のお顔はほんとうに上司の先生が言われた通り「外柔内剛」のお方と感じ、この時先生のお近くで生活させていただく喜びを知らされました。

寮生の人数はその年により多少変動はありましたが、広島市・呉市・福山市等十一市と山県郡を筆頭に郡部が九郡、山口・島根・京都等他県から数名で、多い年は百人を超えた年もあったように思います。しかし交通の便がよくなるにつれ寮生は減少してきました。

寮生の環境はいろいろで、先ず公立に外れた者、姉妹がいないので寮生になれば友達ができて楽しいという者、高校淳風寮にはいれば礼儀正しく素直な女の子に自然になれるのでたのしいからと公立へ受験しないでストレートに寮生になっている者。また、公立へは合格したけど人作りが大切と本寮生になった者もあり、調べてみると責任の重大さを感じるとともに生き甲斐を覚えました。「為せば成る」愛と誠で根気よく努力を重ね、女らしく礼儀正しく素直な女の子という赤い実を稔らせようと努力を始めました。時には「自由が欲しい」とおこった子もいました。しかしコミュニケーションを重ねて行くうちに、礼儀に対し素直さに対し充分雰囲気がかけた頃は、ミキ先生からも「近頃礼儀が正しくなっていますよ。」と言われたり、お店へ行きますと「寮生さん、上品になりましたね」と言われホッとした事もありました。一番嬉しかった事は、お母さんから「先生ありがとうございます」と言われました。寮へ入れてもらった値打ちが今頃わかり始めました。家の中でも、おじいさん、おばあさんにやさしくしてくれまし、隣りのおばさんも「娘さんが礼もよくされるようになり、女の子らしくなれうれしいでしょう」と言っていただきうれしゅうございます」という電話があつたことでした。勿論その後もお母様方からお電話をいただき、何回かホッとさせてもらいました。

ミキ先生、御指導いただきました「為せば成る」の一コマを礼儀に一例をとりお話させていただきましたが、「為せば成る」と今後も各面に私なりに努力を重ね、稔りのある生活を楽しませていただき、ミキ先生に御恩の万分の一でもお返しさせていただきたいと感じています。

ミキ先生思い出は尽きません。

今感謝と尊敬の念と惜しい心、悲しい心が交錯して文字、ことばでは表現できません。

無理に無理を重ねられたお体でございます。ごゆっくりお体をお休めになつたくださいませ。「為せば成る」に花を咲かされ完熟した実を結ばれた武田学園の益々の御発展とともに、先生の御冥福をお祈り申し上げます。

最後に、もう一度

勲三等宝冠章を先生のあのお胸で拝ませていただきとう存じます。